

平成30年度第1回四條畷市立図書館協議会会議録

1 日時 平成30年8月28日（火曜日） 午後2時00分から午後3時55分

2 場所 市民総合センター2階 図書館集会室

3 出席

(1) 図書館協議会委員

○出席委員は次のとおり

大庭 つばら委員 北本 もと子委員 小林 初根委員 高垣 聡美委員

乾 昭彦委員 辻野 栄子委員 羽森 清司委員

林 美香委員 平山 明子委員 福井 多恵子委員

※欠席：羽森 清司委員

※「四條畷市立図書館協議会運営規則 第6条」により、出席者が定数の過半数に達しているので協議会は成立。

(2) 四條畷市教育委員会事務局の出席者は次のとおり

森田教育長 上井教育部次長兼学校教育課長

田中図書館長 福井分館長 中崎

4 議題 次のとおり

(1) 平成29年度主な図書館事業の実施状況について

(2) 第3次子ども読書活動推進計画の策定について

(3) その他について

5 本日の議事次第記録者 次のとおり

図書館 中崎

6 開会

(1) 森田教育長挨拶

委員の皆さまこんにちは。四條畷市教育委員会教育長の森田です。平成30年度第1回の図書館協議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。日頃は本市の教育行政にご尽力いただきましてありがとうございます。

この場をお借りしまして、感謝の意を申し上げます。

また、引き続き四條畷市のより良い読書活動の推進に対して、数多くのご意見を

賜りまして、図書館の発展のためにご尽力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

さて、本日は私の遙か20年ほど前のこととお話したいと思います。小学校の教員をしていた頃です。小学校の3、4学年を担当していた時期がございました。帰る時に終わりの会というのがあるのですが、いつも本の読み聞かせをしていました。図書室から物語を借りてきまして、声を変えたり間を開けるなど、工夫しながら読んでおりました。間を開けた時に子どもの方を見ますと、真剣な眼差しを向けて聞いてくれているんです。その光景を今でも覚えています。その姿が微笑ましく、また楽しくて、もっと読んであげたいという気持ちになるんです。そう思いながら読みますと、ぐんぐん子どもたちが迫ってくるんです。その時に、急に本を閉じて、「今日はここまで。また明日元気においでね」と言っていたのですが、この一言を言うのがいつも楽しかったという思い出があります。

本日は、案件に第3次子ども読書活動推進計画の策定についてがございしますが、第2次の計画の「はじめに」に次のような文章があります。「本来、子どもたちは読書が好きで、読書環境を整えれば、多くの子どもたちが読書を楽しむことができます。子どもは素敵な本に出合えば、夢中になって読みます。壮大な想像の世界に楽しみや喜び、やさしさや悲しみを感じながら、一つの貴重な体験をします。子どもたちはこのような読書体験を通して言葉を学び、知識や思考力を身につけ、また、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにします。

読書は、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものです」。これから2次の後継である第3次子ども読書活動推進計画を、意見交換をしていただきながら、策定へと進んでいくことになります。

子どもたちに読書に興味を持ってもらい、どんどん本を読んでもらいたいと思います。そして、どのような社会になっても、子どもたち自身がしっかりと生きていく力をつけていかなければならないと思っています。

結びになりますが、今年度、図書館協議会は4回ございますので、大いに話し合っていたただける会になることを祈念いたしまして、わたくしの挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(挨拶後、教育長は公務のため退席)

(2) 配布資料の確認

(資料1) 図書館法、条例、規則等

(資料2) 平成29年度主な図書館事業の実施状況

(資料3) 国、大阪府の子どもの読書活動に係る計画策定の経過（概要）

(資料4) 四條畷市子ども読書活動推進計画策定の経過

(資料5) 四條畷市立図書館協議会委員名簿

その他、新任委員には第2次子ども読書活動推進計画を配布

(当日資料1) 第3次四條畷市子ども読書活動推進計画策定に係るアンケート
調査結果

(当日資料2) 児童サービス関係統計の推移

(3) 委員自己紹介

(4) 事務局自己紹介

(5) 四條畷市立図書館の位置付け、図書館協議会の役割等の説明

(6) 会長、副会長の選任

委員より、会長に福井委員の推薦があり、一同拍手で決定

続けて、会長の挨拶

改めまして福井です。よろしくお願いいたします。2年前に、図書館協議会の委員をお願いされまして、せん越ながらお受けさせていただきました。大阪府立図書館に勤めておりましたけれども、資料収集と整理の方が主担当であり、利用者や市町村の図書館との交流はほとんど無い状態でした。

この協議会委員を務めさせていただいて、地域の図書館の運営やあるべき姿、方向性を一から勉強させていただいているところです。小さな町ですけれども、人の命や愛情がこもった市政ができるように、少しでも私たちがお手伝いできれば、そして何よりも未来の子どもたちのために、皆さんのお力をお借りして良い方向に進めていければと思っておりますので、力およびませんけれども、この大役をお受けさせていただこうと思います。この一年頑張らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

挨拶後、会長より、副会長に高垣委員の推薦があり、一同拍手で決定

続けて、副会長の挨拶

四條畷おはなしの会の高垣です。子どもが生まれてから、小学校や保育所で絵本の読み聞かせやおはなしを語るという活動をさせていただいています。一つでもよい意見が出せればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(7) 会議録署名委員の指名

会長の指名により本日の署名者は林委員に決定

7 議事の要旨

会 長 議題1の平成29年度主な図書館事業の実施状況について事務局から説明をお願いします。

事 務 局 議題1について、(資料2)に添って説明

図書館の基本サービスである貸出の他、資料の提供を中心として、行事開催による読書推進や図書館を身近に感じてもらえるような取組みによって利用促進を図るなど、各種事業を実施しました。

まず、図書館資料については、年間受入冊数が昨年を上回り、年間除籍数が昨年より大幅に減少したことから、蔵書冊数は3月末時点で約4,700冊増加となっています。

利用状況については、利用のべ人数が本館、田原ともに微減となったため、貸出冊数は全体で微減となりました。しかし、減少数は約600冊であり、一日平均の貸出冊数が昨年と同じ冊数であることを考えると、開館日数が昨年よりも1日少なかったためだと考えられます。

登録者数については、昨年より微減となり減少傾向となっています。町別登録者数の登録率は、田原台が高く、西よりの地域ほど率が低くなるという傾向です。

年齢別統計については、年齢階層別利用人数は、13歳以上はどの年齢層も昨年と同じような数字となっておりますが、0～6歳は昨年よりも2割ほど増加し、7～12歳は1割以上減となっています。

その他のサービスの団体貸出については、学校への貸出が大幅に増加しています。この要因は、学校図書館支援で支援員が配置された学校への図書室への貸出が増加したためです。

個人予約サービスについては、インターネット予約が年々増加傾向にあり

ます。窓口での予約がそれほど減少しておらず、全体での予約が増加していることを考えると、利便性の向上により増加したものと考えられます。

次に行事、催し等、その他の事業をご覧ください。催しについては、四條畷図書館は、「絵本とあそぼ！おはなしコンサート」など、例年好評の行事を中心に実施いたしました。田原図書館では、新たな催しを実施しました。まず、「本の森コンサート」ですが、初めての試みとして館内で音楽会を実施しました。

終了後、ベランダを開放して田原支所と連携のもと、お団子を振る舞ってお月見を楽しんでいただきました。また、「講談社全国訪問おはなし隊」ですが、出版社の講談社が主催するお話し隊が全国を回るという取組みに応募しまして、田原図書館に来ていただきました。

内容は、本を積んだキャラバンカーを開放して、思い思いに本を読んでいただき、その後おはなし隊によるおはなし会を実施しました。この行事も非常に好評でした。

次のページに移りまして、「おはなしかいとえほんのひろば」については、大阪府教育庁と寝屋川市立図書館と連携のもと、イオン四條畷店で子ども向けのイベントを行いました。マットを敷いた上に段ボール面展台を使って絵本をたくさん並べ、出入り自由で思い思いに本を読んでゆっくり過ごしてもらおうというイベントですが、常時40～50人が滞在、読み聞かせ実施時には100人を超える集まりとなり大いに賑わいました。

次に、学校支援については、平成29年度は、前年度までの田原小、東小、南小の3校に加え、くすのき小、岡部小、西中の3校を拡充して計6校の支援を行いました。支援内容は、記載のとおり、平成27年度に実施した田原小学校のモデルをもとにしております。

ビブリオバトル市内中学生大会 in なわてについては、昨年度初実施の取り組みです。中学生の読書推進のため、学校教育課と連携のもと、各中学校から2名ずつ参加を募り、市役所議場でビブリオバトルを行いました。前年度まで教育委員会で実施していた主張コンクールに読書推進という要素を加味して発展させた形で実施したものでございます。

第1回開催記念として、ビブリオバトルの考案者を講師として招いて入門

講座を実施し、一般市民方々にもビブリオバトルを体験していただき、ビブリオバトルの普及を図りました。以上、平成29年度の主な図書館事業の実施状況です。

【質疑応答】

- 会 長 今、事務局から説明がありましたが、何か質問等ありますか。
- 林 委員 資料2の2ページ(2)「町丁字別登録者数」について、田原台の登録率が高いですが、何か特別な取組みをされているのでしょうか。
- 事 務 局 田原地区は図書館から離れた地域の若い方の登録が比較的多いのが特徴です。しかし、登録率が高くとも、それが必ずしも利用者数の増加や利用率の高さに影響しているというわけではありません。支所と同じ建物内に図書館があるため、住民登録をしに来られた際に一緒に図書館の利用者登録をしていくケースも多いです。また、田原小学校では3年生になると必ず図書館の見学に訪れて全員利用登録の確認をしており、そのあたりが登録率の高さの要因になっているかと思います。
- 会 長 他の地域を見てみますと、やはり図書館から離れると登録者数も少なくなる傾向にありますね。
- 事 務 局 半径500mの直径1km圏内が自転車で利用者が来られる範囲だと言われます。田原の場合は車移動が前提になりますので、それにあたるかどうかわかりません。
- 副 会 長 図書館が駅前にあれば、もっと利用者が増えるでしょうね。
- 会 長 成人の利用者数は増えるでしょうが、子どもの利用者はもっと身近にないと増えないのではないのでしょうか。特に四條畷市はJRの幹線と163号が、子どもたちだけで来ることができるという環境にするためには障害になると考えられます。小学校の校区編成の問題もあり、子どもたちにとっては厳しい状況になってくるのかもしれない。
- 事 務 局 現場としては、単独で来る子どもは激減していると感じています。保護者同伴でないといけないというわけではないですが、実際は保護者同伴もしくは友達と一緒に来る子どもが大半です。昔は一人で自転車に乗って来る子どもがたくさんいましたが、今はとても少なくなっています。

平山委員 毎年、雁屋は利用者数が少ないです。とくに雁屋西町は外環を越えて更に向こう側なので、極端に少ない状態が長年続いています。市民活動センターに分室をつくる、くすのき小学校の図書室を一般開放する等の話がありましたが実現には至っていません。子どもたちは、子どもだけで校区外に行かないようにと学校から指導されているので図書館に行けません。夏休み中はとくに、読書感想文など宿題のために行きたいけれど、保護者もなかなか連れて行けない、というのが現状だと思います。

辻野委員 砂四丁目が人口も登録者数も0なのはなぜでしょうか。

事務局 工場などが多く住居がない、住民がいないということかと思いますが詳細は把握しておりません。調べて回答いたします。

副会長 資料2の6ページ「行事・催し等、その他の事業」1. 図書館の催し(2) 田原図書館の⑧講談社全国訪問おはなし隊というものについてお話いただきたいです。

事務局 講談社のキャラバン隊が大阪に来ること自体なかなか無く、抽選に当たらないと聞いていましたが、申し込んでみたところ選抜されました。同ページ右下に掲載している写真が、無償で来ていただける講談社のキャラバンカーです。大きなトラックで、扉を開けると中が図書室になっています。キャラバンカーの前にシートを敷いて、その上で積んできた本を読みました。その後ホールへ移動し、第2部として絵本の読み聞かせ、歌あそびなどを行い、読書推進協議会のボランティアの方がおはなしをしてくれました。非常に好評で、特に赤ちゃん連れのお父さんお母さんにたくさん参加いただき、100人くらい集まりました。おみやげに講談社からパンフレットと、図書館からてづくりのものを用意しました。来年も来てもらえるかはわかりませんが、引き続き機会があれば応募していきたいと思っています。

副会長 市民への周知はどのように行いましたか。

事務局 市政だよりのフォトニュースで報告をしました。

副会長 当日自由参加ですか。

事務局 申込み不要で当日自由参加にしました。普段は図書館に来ない方も来てくれてよかったと思います。バスがとても立派で、電動で舞台や階段が開くというのが見どころでした。長年全国を回られているので、子どものこともよ

くわかっており、おはなしのスキルも高く良かったです。

事務局 先ほどの砂四丁目についてですが、確認したところ、イオンと外環の間の北側、第二京阪と外環の交差点あたりですので、やはり工場やビル、居住の少ない地域なのではないかと思えます。

辻野委員 西部地区が来館者、登録者とも少ないことについては、やはり図書館が遠いからというのが理由としてあると思えますが、くすのき小学校の図書室の一般開放などの案はまだ審議中なのではないでしょうか。

事務局 最初は設置をめざすということで教育振興ビジョンにも記載していましたが、その後、市内の社会教育施設を今後どうしていくか総合的に話し合っていたほうが効率的だろうということで、そのなかで決めていくという形になりました。最終的な結論はまだ出ておりませんので、他の社会教育施設を含めて総合的に検討していくところです。

平山委員 ほぼ立ち止まっているのが現実ですね。

事務局 学校再編との関わりもありますので、先ほども申しましたとおり施設全体の話し合いのなかで総合的に検討していくものと考えております。

乾委員 当初、教育環境整備計画のなかにくすのき小学校図書室の一般開放が盛り込まれていましたが、新たに東市長就任を機に、学校再編など見直しを行われたところもあるように思えます。市長との対話会の議事録などを拝見しますと、先程ご指摘の計画はまだあるとのことが出ておりましたが、今後どうなるかは未定ということですね。

平山委員 逆に、地域住民からもっと声があがればいいのには思えます。なかなかそこもあがってこないというところが立ち止まりの原因かなとも思えます。

辻野委員 地域と市長の対話会ですが、その場で要望を聞いてもらえるという性質のものではなく、事前に各自治会で質問事項を決めてあるのか、一市民として参加してなかなか要望を出すのが難しいように感じました。

事務局 そういったご意見があったことはお伝えしておきます。

副会長 図書館協議会からの要望として出すことはできないのでしょうか。

事務局 第3次子ども読書活動推進計画の策定年ですので、その推進計画のなかの一つとして、くすのき小学校図書室の市民開放が必要だとそ上にあげていくことは可能かと思えます。

- 会 長 それに向けてしっかり芯を持って方針を出していく必要がありますね。
- 乾 委 員 資料2の2ページの結果は、この地域の方が利用していないということがはっきり出ていて、くすのき小学校図書室の市民開放が必要だということの裏付けになる良い資料だと思います。
- 事 務 局 田原図書館は約9千人の市民に10万冊用意している、他市ではなかなか見られないほど非常に立派な図書館です。そういった図書館が地域にあるということで自然と登録者数の増加につながっているのかもしれませんが。
- 平山委員 くすのき小学校の図書室に見学に行きましたが、私たちの子どもの頃と比べると、とても開放的で広くて良い図書室だという印象を受け、地域に開放する方向で検討しているというので期待していました。夏休み中など、子どもたちにだけでも開放してくれないかと思うのですがいかがでしょうか。
- 辻野委員 夏休み期間中、試行的に何日間でしたか開放したそうです。子どもだけでなく保護者と一緒に来てほしかったのですが、保護者は校門の前で帰ってしまったということがあったようです。
- 平山委員 定例化していけば、図書室に子どもたちだけでも入れるということが浸透し、保護者も安心して行かせられるようになると思います。
- 辻野委員 支援員さんが派遣されるようになって、ガラッと図書室が変わったと校長先生は喜んでいらっしゃいました。子どもたちの反応もちがうと聞いています。だからこそ、一般市民にも開放してもらえたらと思います。
- 平山委員 市民にも開放してもらいたいが、まずは子どもたちが夏休みの宿題等あるなかで、図書館まで来るのは難しくても学校の図書室だったらいけると考えられる環境にしていただければ、子どもたちももっと本に親しめるのではないかと思います。ビブリオバトルを学校でやっていると聞いていますので、もっと子どもにとって身近なところから取り組んでいただければと思います。
- 会 長 何か新しいことを始めるには市民を集めるのが大変だと思います。今の若いお母さんはほとんどの方がお勤めされており、その時間帯もさまざまです。地域行事の役員も実際の活動はなかなかしていただけないという傾向が最近あるように思います。一方で、ボランティアで何か力になりたいと思っている方もたくさんいらっしゃると思います。その旗振り役を図書館にお願い

するのは難しいかもしれませんが、ボランティアさんをうまく活用して小さなことから始めていただけたらと思います。実績をつくってしまうというのが強いのではないのでしょうか。

先ほどの森田教育長のお話にもありましたように、子どもたちは機会を与えてあげたら吸収する力は持っていますから、大人が何もせずに放っておくのはもったいないことだと思います。来年の夏休み、もしくは今年の冬休みから、週1日でも2日でも実施できたらいいなと思います。

事務局

ボランティアさんが力になって心強いというのは、学校へ支援に行かせていただくようになってから非常に感じております。今年度から、忍ヶ丘小学校へ支援に行かせていただいておりますが、夏休み期間中に行う書架の整理作業も、昨年岡部小学校で行いました時にはボランティアの方がいらっしゃらなかったもので、支援員だけでやるにはなかなか時間がかかりましたが、今回忍ヶ丘小学校にはボランティアの方がたくさんいてくださったので早く進んだと支援員から聞いております。ボランティアさんのいらっしゃらない学校はまたお願いしていきたいと思っています。辻野委員からもおっしゃっていただきましたが、確かにくすのき小学校で夏休みの間若干の日にちではありますが、支援員が図書室の開放を行っておりました。7月が計4日、8月が週1日で計3日、合計7日間ほど実施しまして、たくさんではないですけども毎回子どもたちが来てくれていました。数は多くなくとも来てくれる子どもがいるということは実施する価値はあると思っておりますので、来年以降も続けられるようにくすのき小学校と話を進めていきたいと思っています。

大庭委員

一般市民の方と子どもたちのことは別に話を進めたほうがいいのではと感じます。子どもたちが図書に親しむ場というのはやはり学校図書室だと思います。その学校図書館での取組みをここで話し合うべきなのかもわかりませんが、学校図書室の働きというのはすごく重要なものだと思います。可能であれば、細かい統計までは必要ありませんが、どういう活動をしておられて、どういう効果があったのか報告がいただければ考えるための資料になるかと思っています。

事務局

各学校の取組みについては、支援をさせていただいている学校に関しては

支援員から日誌を送ってもらっているのですが、各校の支援員の取組みについては把握できます。子ども読書活動推進計画の策定にご意見をいただく時にはお出しできるものはお出ししたいと思います。その他の支援を行っていない学校についても、学校図書館協議会というものがございまして、そちらに図書館も参加させていただいています。学校の図書担当の先生が集まる会議にも参加させていただいていますので、そこでお話しさせていただきたいと思っています。

小林委員

今の大庭委員のお話と関連して、一般開放といっても、成人の利用者が今の既存のくすのき小学校の図書室の蔵書をそのまま利用して機能するのかなどという問題もあります。田原小学校の登録者が多いというのは、学校の取組みも大きいと感じます。どの学校も取組みはされているが、田原小学校の児童の読書数というのは確かにすごく突出しています。その田原小学校の子どもたちが田原中学校に進学し、部活もとても盛んですが、読書の習慣が身につけている生徒は昼休みなどのちょっとした時間にも本を読みますし、朝読の時間もあります。中学までは本人にその意識があれば読書の時間をつくることは難しくありませんが、問題はその後で、高校へ進学してから子どもを持つまでの年代の方たちの図書館の利用がとても少なくなっています。今は電子書籍等で読書もできるので図書館以外のいろいろな形で学習はしているのだろうと思いますが、図書館に限って言えば、その年代の方たちをいかにして図書館に来やすくするかということが取組みの一つになってくるのではないのでしょうか。また、子どもに読み聞かせをしているお母さんのなかで、1週間に毎日、冊数も何冊も読んでいるというお母さんは、その大半が図書館で本を借りている、という結果になっています。読みたい方は図書館を利用しているということがわかります。30代以降の年齢になってくると、子どもと関わって図書館が必要になってくるようです。

もう一つ、60代以上の利用者数が一番多いことについて、やはり時間的に余裕があり、何か生涯かけて学習したいという時には図書館はすごく便利だということだと思います。そういった方たちに対しても、図書館が近くにあるほうが、当然利用はしやすいです。くすのき小学校の図書館も、図書館側が、こういう利用者に応えられるような施設にしたいという見通しをもっ

て取り組んでいくということが必要になると思います。また、学校というところにいろんな方が入ってくるというのは、このご時世ですから安全面でも警戒してしまうところです。実現するには、普通の図書館以上に対策も必要になるでしょう。

事務局 市内小中学校でさまざまな取組をしております。読書の冊数を増やす等もちろんですが、読書の習慣をつけることで、その後の高校進学以降の読書量につながっていくのかなと思います。小学校の授業でも図書室をできるだけ使うようにしています。中学校でも図書室で実習をしたり、テスト前に生徒が勉強できるように開放したり、ボランティアや支援員の方々の力を借りながら学校の図書室を身近に感じてもらえるよう取り組んでいます。学校の図書室にあるもの以上のものを生徒が求める場合は公立の図書館に行くといいと生徒に伝えていきたいと思っております。

事務局 現場の考え方になりますが、公立図書館として基本にあるのは就学前の子どもの読書推進を図り、就学してからは学校図書館と併用して公共図書館も利用してもらいたいと考えています。田原図書館が直面している問題として、田原小学校の図書室はとても良い図書室ですが、それゆえにそこで完結してしまい、公共図書館の利用につながらないという問題もあります。そもそも読書をしない子どももいるというところで、やはり就学前に力を入れていかないと、読書の習慣自体が衰退していつてしまうのではという危機感を覚えています。また、30代、40代の母親世代の利用が激減し、60代以上の利用が増加するという二極化が進んでいるというのが現状です。図書館が受身でいてはいけない状況になっているので、どう取り組んでいくかを考えていきます。学校図書館が整い、地域の子どもの読書量が増えたのはとても喜ばしいことなので、公共図書館も一緒に利用を伸ばしていけるように努力していく必要があると感じています。

会長 図書館もしっかり考えて対応していただいているということが皆さんおわかりいただけたと思いますが、それに加えて、この会議で出ました意見も市当局のほうにお伝えいただけたらと思います。また、第3次子ども読書活動推進計画の策定もございますので、今出ましたご意見をそこにも反映させていただけたらと思います。

議題1に関して、他にありますか。

林 委員

母親世代が忙しいということについて、時間がないから本が読めないという方が多いと思います。中高生にも言えることですが、読みたい本があっても、図書館に行ってその本を探す時間がないのではないのでしょうか。ゆっくり眺めて探す時間がないのでキーワードで検索するが、ヒットしない。OPACのキーワード検索では出てこないが、スマートフォン等で調べて出てきた本の書名で改めて検索をすると所蔵があるということがよくあるように思います。子どもからも、図書室のパソコンが使いにくいという意見をよく聞きます。

会 長

これは私の経験からですが、キーワードだけの検索は難しいです。今はインターネット等他の方法でそういうことが簡単にできてしまうので、すべてにおいてそうできてしまうと勘違いしてしまうのでしょうか。司書でも利用者の方の要望に応えようと思えば、日常的に努力を積み重ねていないといけません。私は児童書の担当をしたことがありませんが、同僚は電車のなかで読むために毎日5、6冊本を抱えて通勤していました。子どもたちに本を紹介するためです。おそらく出版されている本の8割ほどは読んでいたと思います。司書は日頃そういった努力をしており、そうすることで子どもたちから何か聞かれたときにパソコンを叩いて出てこなかったとしても、こんな本がここにはないはずがないと考えることができます。本と人とをつなぐ役割が司書ですから、今学校図書室に支援員さんを置いていただいているのですが、本来なら司書を配置すべきだと思います。国がそれを義務付けるところまで本来ならいってほしいですが、今なかなかそれが実現できていないというのが現状です。司書を置いていただくと、司書と子どもの会話のなかで学校図書室が勢いを増してきたように、そのつながりのなかでどんどん子どもたちの本に対する考え方も変わってくるでしょうし、自分で本を探す方法も覚えていくでしょう。また、司書に対して、あの方に訊けば見つけてくれるだろうという信頼関係が生まれることもあるでしょう。機械に頼るのではなく、そういうものがやはり必要なのではないかと思います。

林 委員

今まで子どもたちは司書とのふれあいがなかったもので、訊いたらどうかなるとあまり思っていない。もちろん司書がいるのが一番ですが、発想の

転換で、例えば読んでいた本の続きが読みたいがタイトルが思い出せない、検索したいけどわからないという時に、アイデアとして自分の携帯電話等で正しい書名を調べて入力すれば見つかることもあるということを図書室の端末に掲示してもいいのではないのでしょうか。全国の図書館の蔵書検索ができるカーリルというアプリがありますが、そのアプリはキーワードを入れて検索したら、多少くらい間違っても候補を出してくれます。それを見て借りに行ったり、ここにはないから他から借りてもらおうと思ったり、そういった利用の仕方があるということを知らずに、図書館に行ってもわからないと思い込んで、遠のくということが多いのではないかと思います。本が好きな子どもは多いですが、そこから図書館を便利なところだと思ってもらうために、もう一步踏み込んだ発想の転換が必要なのではないのでしょうか。

田原小学校は3年生で図書館の見学に来るのが恒例となっているのですが、どの小学校もそうですよね。それくらいの時期に図書館に来ていただいて、こういう資料がある、こういう探し方ができる、もしこの図書館に所蔵がなくても他にこういう方法がある、という提示をしていただいていると思います。

事務局 見学の際に、何のために司書がいるのかという点についてはしっかり伝える必要があると思っています。おっしゃるように、昔の子どもたちはよく職員と話をしてくれましたが、今は司書がいても自分で検索をして探します。声をかけてほしいという気持ちがあるため、図書館ではレファレンスを受けられるということをアピールしていかなければならないと感じています。気軽に相談してもらえそうな窓口づくりが課題だと考えています。

会長 職員も限りがあり、カウンターに座っておられても、何か作業をしておられる。そうすると利用者としては声をかけたら悪いかなと思ってしまうということもあると思います。

事務局 図書館の検索機の使い方については、こちらをもっと周知していかないといけないと感じます。どうしてもインターネットの検索に慣れてしまっている子どもたちにはキーワードでの検索は難しいかもしれませんので、図書館のシステム更新を行う際には、現場の抱えている課題について業者と話し合いの場を設けながら、システム自体を今の子どもたちに合ったものに変えて

いくという方向で提案することもできます。

会 長 他に質問ありますか。なければ2点めの議題に移ります。事務局から説明をお願いします。

事 務 局 議題2の第3次子ども読書活動推進計画の策定について(資料3)に沿って説明

当日配布資料1をご覧ください。このたび、計画策定にあたり、読書実態調査アンケートを実施しました。趣旨は、子どもたちの読書実態の現状把握と、第1次の計画を策定したときにもアンケートを実施しましたが、10年前との変化を確認するためです。

まず、表紙の裏面ですが、調査対象はこども園や保育所に通う子どもの保護者、そして小学生、中学生の3パターンでございます。それぞれ質問内容は違っておりますのでパターンごとにご報告いたします。

1 ページめの乳幼児保護者向けアンケートをご覧ください。「お子さんと一緒に本を見たり読んだりする機会がありますか」との質問では、回答①②③の合計が93%となりほとんどの保護者が一緒に本を読んでいるという結果となりました。特にほぼ毎日、週1～2回高い頻度で一緒に読んでいる保護者が81%と第1次のアンケートより19%も増加しており、良好な結果が得られました。

質問「お子さんに読んであげる本はどんな本」では、絵本が96%と、やはりほとんどの人が絵本を使用しているという結果となっております。

次のページの「お子さんに読んであげる本はどこで調達されますか」との質問では、一番多かったのは②書店でしたが、図書館で調達する割合が35%と第1次のアンケートより12%も増加しております。

質問「図書館はどのくらい利用されますか」では、①②を合わせた月1回以上つまり習慣的に利用している人の割合が36%と第1次より7%増加しており、質問(4)の「図書館で調達する人が増えている」という結果と比例した結果となっております。

この「子どもの本をどこで調達するか」と「図書館の利用頻度」の相関関係を参考に調べてみました。子どもの本を図書館で調達する人は、2週間に

1回以上または月に1回利用と習慣化している方が92%と非常に高い割合であるのに対し、図書館以外で子どもの本を調達する人は、ほとんど利用しない人が60%以上と、子どもの本を図書館で調達する、しないで図書館利用頻度は2極化していることがうかがえます。

質問「アンケート回答者自身は1か月あたりどのくらい本を読むか」では、ほとんど読まない人が61%と読む人よりも完全に多い結果となっております。特に0から2歳児の保護者は、10人中9人がほとんど読まないと回答しています。

この質問では、子どもの本の調達方法と相関関係、また図書館利用頻度との相関関係を調べてみました。ひと月の間にほとんど読まない人は子どもの本を書店で調達する人が圧倒的に多いのですが、「読む人」は図書館で調達する人の割合が書店で調達する割合とほぼ一緒、またはそれ以上となっております。

図書館利用頻度は、ほとんど読まない人は60%がほとんど利用していないの比べ、読む人はほとんど利用しない人よりも定期的に利用している人の方が完全に多くなっています。

さらに、保護者の読書量と子どもと一緒に本を読む頻度との相関関係も調べてみました。自身がほとんど読まない保護者よりも読む保護者の方が、子どもと一緒に本を読む頻度が高いという結果となりました。しかし、自身が読まない保護者でも、週に1～2回以上子どもと本を読む頻度が77%と非常に高く、自身は読まない人でも子どもと本を読むことが習慣化している人が多いことがうかがえる良好な結果が得られました。

質問「子どもにとって読書する意義として最も適切だと思うものは」では、想像力の育成が一番多いという結果になっています。

次に、市内小学生向けアンケートをご覧ください。まず、質問「読書は好きですか」は、①②をあわせた読書が好きであるとの回答が3学年、5学年ともに70%を超えました、④⑤を合わせた嫌いという回答は3学年、5学年ともに10%未満と、読書好きが多く、読書嫌いな児童は非常に少ないという結果となりました。次の質問では、質問「読書は好きですか」で「どちらかという嫌い」、「嫌い」と解答した子どもに読書が嫌いな理由を質問し

ました。3学年、5学年ともに「文章を読むのが苦手だから」が一番多いという結果になりました。懸念しますのは、5学年になると「読んでも楽しくないから」という回答が35%と3学年から大幅に増加していることです。

次の「普段1か月の間にどのくらい本を読みますか」との質問は、3学年は第1次のアンケートと比べると10冊以上読む児童が6%増えています。しかし、一方で5年生は10冊以上読む児童が9%減り、「ほとんど読まない」、「1冊」の合計が10%も増加し、10年前と比べて3年生はよく読む児童が増えているが、5学年は読書量が減っていることがうかがえます。

また、この質問では、読書の好き嫌いとの相関関係を調査しました。やはり、「好き」であるほど読書量が多く、嫌いであるほど読書量が少ない結果となっています。

質問「どんな本が好きですか」は、3学年は1項目が特に多いというようなことがなく色々なジャンルが好まれており、5学年になると「小説などの読み物」が1項目だけ割合が多くなり、低学年から高学年になると読書傾向が変わることがうかがえます。

質問「読書以外で好きなことがあるか」は、3学年、5学年ともにゲームが一番多くなりました。しかし、参考に好きなことと本を読む量との相関関係を調べたところ、読書量に関わらずゲームが一番好まれているという結果となりました。ただし、「ほとんど読まない」児童は、読む児童に比べるとゲームが好きな割合が高くなる傾向はうかがえます。

質問「休み時間にどのくらい図書室へ行くか」は、3学年は「ほとんど行かない」児童より、①、②の図書室利用が習慣化している児童の合計の割合が多くなっていますが、5学年は「ほとんど行かない」児童の方が多くなっています。

質問「市立図書館へどのくらい行くか」は、3学年、5学年ともに「ほとんど行かない」児童よりも、「よく行く」「ときどき行く」児童の方が多くなっています。

最後の「小さい頃お家の人に本を読んでもらっていたか」との質問は、「よく読んでもらっていた」「ときどき」の①②の合計が3学年と5学年の合計で65%と多くの児童が本を読んでもらっていたことがうかがえます。

また、参考に本を読んでもらっていたことと読書好きとの相関関係を調べてみました。小さい頃よく読んでもらっていた児童ほど、読書が「好き」と明確に答える割合が多いという結果になり、小さい頃の読み聞かせと読書が好きになることとは相関関係があることがうかがえます。

次に、市内中学生向けアンケートをご覧ください。まず、質問「読書は好きですか」は、1学年、3学年ともに①「好き」の割合が一番高いのですが、小学生と比べると20%近くも低くなっています。次の「普段1か月の間にどのくらい本を読みますか」との質問は、1学年と3学年とでは顕著に読まない生徒が増えるという結果になっています。

参考に中学生でも読書の好き嫌いと読書量との相関関係を調べてみました。読書「好き」の生徒はほとんど読まないものが74人中わずか2人であるのに対して、嫌いである生徒は17人中13人がほとんど読まないという結果となり、小学生よりも顕著に読書が嫌いな生徒は本を読まなくなることがわかります。

質問「好きな本のジャンルは何ですか」は、1学年、3学年ともに小説の割合が圧倒的に高いという結果になっています。次の「本を選ぶときに参考にするものは何ですか」との質問は、1学年、3学年ともに「本屋で見て」の割合が顕著に高くなっています。

参考に読書量と本選びの参考にする物との相関関係を調べてみました。読む冊数に関わらず「本屋で見て」の割合が一番高いのですが、読む冊数が多い生徒ほど本屋へ行く割合が高くなります。また他のどの選択肢でも読む冊数が多い生徒ほど割合が高くなり、下段の合計のパーセンテージをご覧くださいと分かりますように、読む冊数が多い生徒ほどパーセンテージの合計が多い。つまり読まない生徒より読む生徒の方が本選びの参考にするものが増えるという結果になっております。

質問「読書以外で好きなことは何ですか」は、1学年、3学年各選択肢同じような割合になっており、スポーツが一番高くなっております。

参考に好きなことと本を読む冊数との相関関係を中学生でも調べてみました。小学生と違いますのは、ゲームではなく、スポーツの割合が一番高くなっています。また、ゲームが好きだから不読につながるというような傾向

はみられませんでした。

質問「学校の図書室へはどのくらい行きますか」は、1学年、3学年ともに「ほとんど行かない」の割合が一番高いという結果です。特に3学年は70%の生徒が「ほとんど行かない」と回答しています。

質問「市立図書館へはどのくらい行きますか」は、こちらも1学年、3学年ともに「ほとんど行かない」の割合が一番高いという結果になっております。特に3学年では、第1次のアンケートよりも「ほとんど行かない」は7%増加しており、3学年の図書館離れが進んでいると言えます。

最後の「小さい頃お家の人に本を読んでもらっていたか」との質問は、①②の合計が1学年、3学年ともに70%と、小学生と同じく多くの生徒が読んでもらっていたという結果になっています。

参考に小さい頃本を読んでもらっていたことと読書の好き嫌いとの相関関係を中学生でも調べてみました。やはり、よく読んでもらっていた生徒は、明確に読書が「好き」と回答する割合が高くなっており、小学生と同じく相関関係があると考えられる結果になっています。

以上、長くなりましたが子ども読書活動推進計画策定に係るアンケート調査の結果でした。今後、ご意見、ご審議いただく際の参考にしていただければと思います。

【質疑応答】

会 長 今、事務局から説明がありましたが、何か質問等ありますか。

乾 委員 中学3年生になると受験生ということもあり、なかなか読書に時間が割けないというお話でしたが、全国学習状況調査のなかで、スマートフォンの長時間使用率が非常に高くなっており、とくに学年が上がるごとに高くなる傾向があるという結果が出ています。3年生では1日に3～4時間使っているという生徒もたくさんいます。受験勉強に時間を費やしているというのもあるとは思いますが、スマートフォンを使ってゲーム、SNSなどを行っている時間が長くなっているということも大いに考えられます。

辻野委員 学校の図書室は、常に開放しているわけではありませんよね。

事務局 支援員を配置している学校については、休み時間中は開室しています。図

書の担当教員が開室したり、児童生徒の委員会活動として活用しながら開室しています。

乾 委員 本校では、昼休みは週3日程度生徒が開室します。放課後は、生徒はほとんどクラブ活動へ行くので、週2回ボランティアの方に開室していただいています。

辻野委員 子どもたちが利用したいと思った時に常時開室しているわけではないということですね。利用しにくいということはないでしょうか。

乾 委員 たしかに毎日開室していません。教室には学級文庫がありまして、朝読もしていますが、冊数は限られています。図書室にずっとこもって本を読んでいる生徒はそれほど多くありませんが、テスト前等に勉強の場として使う生徒もいます。

辻野委員 調べものをするにも、今は本で調べるよりスマートフォンで検索したほうが早いということもありますよね。

林 委員 調べものをしに来るというよりも、息抜きで本を読みに来る生徒もいるのではないのでしょうか。西中学校はどうですか。

副 会 長 西中学校は火曜日と木曜日に支援員の方に来ていただき、放課後と昼休みに開室しています。月曜日、水曜日、金曜日の放課後に関しても、学校側に図書室の使用予定があるとき以外はボランティアが開室しているので、開室時間は多く確保できていると思います。

林 委員 生徒の利用はどうですか。

副 会 長 懇談会があった日に担当をした際、席がすべて埋まってしまったことがありました。懇談や部活動が始まるまでの待機時間に生徒が気軽に入ってこられる場所になっていると感じています。図書室内にある本を読んでいる生徒もゼロではありませんが、どちらかといえば宿題やテスト勉強をするのに利用している生徒が多いです。ボランティアや支援員などの大人がいても生徒たちはあまり気にしていない様子で、教員の方もうるさくしていないか時々様子を見にいらっしやいます。

辻野委員 それは何か取組みをされた結果なののでしょうか。

副 会 長 新入生の校内見学のオリエンテーションをした際に図書室の見学と利用方法の説明を支援員の方にしていただいたのが一番効果的だったと考えてい

ます。その時間を設けたことで貸出の利用実績は1年生が半数以上で一番多くなっています。今はまだ今年度の1年生だけですが、3年後には全学年が入学時に同じオリエンテーションを受けていることになり、全体的に利用が増えていくのではないかと考えています。書架整理をしていて、一番貸出されていると感じる本が『君の臍臓をたべたい』です。この本だけボロボロになっており、それだけ読まれた形跡のある本が図書室にあるということで生徒が図書室の蔵書を利用していることが実感でき、うれしく思いました。

乾 委 員 毎月新刊が入ると、その表紙のコピーを模造紙に貼り、コメントを書いて、玄関や図書室の前の廊下に貼りだして紹介をしてくださっています。

副 会 長 図書支援員の方は司書の資格は持っていらっしゃるのでしょうか。

事 務 局 司書の資格を持っているか、学校で教員として勤務した経験があるか、そのどちらかを条件にさせていただいています。

会 長 司書の資格も大事ですが、やはりその方個人の熱意が大事だと思います。

小林委員 昔の学校の図書室は、これだけ蔵書を用意してあるから来なさいという姿勢だったように思いますが、最近は生徒たちに読んでもらうための工夫というものが必要になってきているということが、職員にも浸透してきています。しかし、そのノウハウがないので、支援員の方がいらっしゃったときにいろいろと教えていただいて、学校図書室の雰囲気はすごく変わってきており、生徒も来やすくなっているのだと思います。また、図書館に来る生徒すべてが本を読むことだけで来ているのではなく、たとえば教室に居場所がないと感じている子どもが休み時間に図書室へ休憩をしにくることもあるかと思っています。そういった役割もとても重要ですので、いろいろな子どもが自由に出入りできる図書室になりつつあることはとても良い傾向だと思います。ただ、我々は図書館を推奨する立場なので、たくさん生徒が利用してくれたら役に立っていると思いがちですけれども、小中学生の昼休みの過ごし方について考えたときに、読書をするよりも外で遊ぶほうが楽しいという子どもや友達と話をするほうが楽しいという子ども、いろいろな子どもがいるなかで、図書室という場が、求めれば誰でもいつでも行ける場所であるということが大事ではないかと思っています。教師だけでは応えられない要望に応えてくれる支援員さんの役割も重要です。

会 長 中学生くらいになると、いじめとまでいかずとも、仲間の中に入っていくにくい子どもというのが顕著にあらわれてくる時期でもあります。そういう子の居場所として図書室はたしかに最適な場所だろうと思います。

それでは今説明していただいた資料をもとに第3次子ども読書活動推進計画を策定していくということで、10月の初旬にそのための意見交換会をもつということでしょうか。

それでは次の議題に入らせていただきます。その他ということですが、事務局から何かありますでしょうか。

事務局 特にございません。さきほどお配りしました調査票が集まり次第、日程を調整してご連絡させていただきます。

会 長 委員の皆さまからは何かありますか。

林 委員 忍ヶ丘小学校に待望の支援員が来てくださったので報告します。岡部小学校で活動されていた司書資格のある支援員が週1回、今年度から新しく採用された教員経験のある支援員が週2回、合わせて週3回きてくださっています。やはり雰囲気が変わりました。何曜日にこの先生が来るという貼り紙があるので、子どもたちが「今日は〇〇先生の日！」と言って入ってきます。今までも図書室を開放してはいたので、利用人数が極端に増えたという印象はありませんが、常に施設内の改善を図っていることによる明るさを感じる、雰囲気の良い図書室になっています。ただ、週3回というのが思っていたよりも少なく感じます。週5日のうち3回はいらっしゃるが、いらっしゃらない2日の間に図書の授業が入っているクラスは生徒と支援員さんの交流がないと聞いています。そうなってしまっているクラスも少なくないので、夏休み前に短冊に読みたい本を書いて笹に飾るという取組みをされていたが、クラスによって取組みへの声かけに差が出てしまったとおっしゃっていました。始めたばかりで、どのように先生方にアプローチすればいいのかもてさぐりだったこともあり、少し残念に思いました。また、夏休み中に10日間の作業を予定しており、できる限り図書ボランティアも参加していました。その作業に必要な備品があることを学校にも話していましたが、連携がうまくいかず、準備が完了していなかったことがありました。どなたが窓口なのかはつきりせず、連携がとりにくかったということかと思います。学校とど

う連携をとるかという部分が支援員個人の資質に委ねられている印象で、支援員の負担が大きく気の毒にも感じました。これまで数年間活動してきた私たち図書ボランティアが間に入れないかと試みてみましたがあまりうまくいきませんでした。それが2学期から改善されるといいなと思っています。支援員に来ていただいたことで雰囲気はずいぶん変わったので、もっと良くなっていけるとと思っています。

辻野委員 図書の授業のある曜日がクラスごとに設定されているということですね。
林委員 その曜日が一年間変わらないので、支援員に会えないクラスが一年間固定されてしまうので残念です。休み時間に来る子どもばかりではないので。

会長 そのあたりは市立図書館のほうで支援員を派遣する曜日を融通して人員配置することはできませんか。

事務局 勤務可能日数限界まで派遣しているため日数を増やすのは難しいです。支援を始める前に学校の方とお話させていただいて、派遣する曜日と時間をお伝えし、それに合わせて支援員のいる曜日に図書の授業を確保するクラスは学校のほうで話し合っ決めていただいています。例えば岡部小学校では、支援員がいる曜日に図書の時間を必ず確保したいのは低学年のクラスということで、支援員のいる曜日に低学年の図書の時間を集中して入れるようにするなどいろいろと工夫をしていただいています。また、学校の教職員の方々とのコミュニケーションについては、支援を開始してしばらくの間は、うまくいかないことはどの学校でもありました。最初にモデルケースとして始めた田原小学校でも、最初の数か月は互いに遠慮しあったり、教職員の方々からすると支援員をどう扱っていいかわからない等、なかなか難しい時期もありましたが、時間が解決してくれる部分だと感じました。お互いに慣れてくることで良くなっていく部分もあると思っています。

会長 学校側、図書館側お互い努力していただき、その間をボランティアにうまくとりもってもらおうといったところでしょうか。

事務局 学校の担当教職員との連携について、小学校中学校どちらにも図書担当はありますが、特に小学校の場合はそれが担任をもっている教員であることも多分にあります。なかなか日中は授業のため職員室にいないということもどの学校でもあることで、そうなるとう担任を持っていない他の教員や教頭が窓

口になります。もちろん備品の準備やスケジュールなど必ず情報共有していないといけないところなので、そのあたりも確認させていただきます。

事務局 図書を担当教員が担任を持っているかどうかでコミュニケーションの機会、回数というのが全く変わってきます。教頭や別の図書担当教員が必ずいらっしゃるの、そのあたりうまくコミュニケーションをとれる工夫というのはさせていただくようにはしています。昨年、一昨年と田原小学校の図書担当教員は担任を持っている方だったのでなかなかお会いする機会が持てない状況でしたが、当時の教頭先生がいろいろと間に入って工夫をしてくださったこともありました。司書、支援員がどういった仕事をするのかを、学校側が把握できている段階になれば円滑に計画が進んでいくと考えています。

会長 他にありますか。

一同 ありません。

会長 無いようですので、これで平成30年度第1回図書館協議会を閉会いたします。最後に副会長から挨拶をお願いします。

副会長 本日は長時間お疲れさまでした。今年度は第3次子ども読書活動推進計画の審議のため、例年より多く集まりがございます。集まりごとにたくさん意見を出していけるかと思いますので、楽しみになりました。実際は、このような計画が出されても、効果が得られているのかどうか疑問に思っていたのですが、資料やアンケート結果を説明いただき、効果があることがわかりましたし、子どもたちの読書環境が整えられつつあること、読書への意識が高められつつあることがデータとして出ていてよかったと思いました。ですから、今年、私たちが集まって会議を重ねることも無駄にはならないと思いますし、またより良い環境を整えることの一助になればうれしく思います。

ありがとうございました。

会長 ありがとうございました。

以上

上記議事録の顛末を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

平成30年8月28日

四條畷市立図書館協議会会長

同 委 員